

よく分かる聖杯戦争[中級編Ⅱ] —用語解説集—

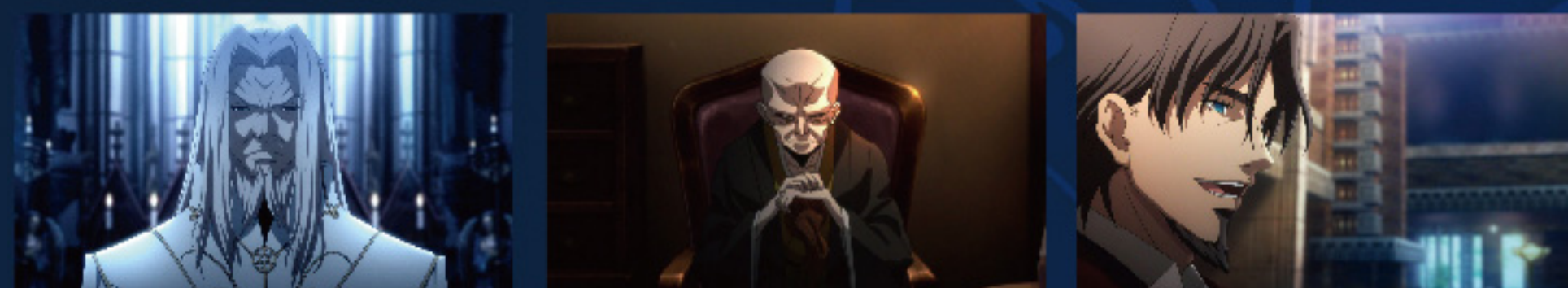
【根源】

この世の全ての出来事の始まりであり、その全てを記録するモノ。結末、分かり易く言えば「真理」「究極の知識」と同義の存在である。目的は様々だが、魔術師たちの最終目的はこの『根源』に至る事とされる。

【始まりの御三家】

200年前、あらゆる願望を実現させる機能として聖杯を構成・召喚し、魔術師の悲願『根源』への到達を果たそうとした三つの魔術家系「アインツベルン」「マキリ」「遠坂」の総称。

三家の魔術師は互いの秘術を提供し聖杯を召喚したのだが、召喚後、聖杯はただ一人の願いのみ叶える事実を知り、そこから聖杯を奪い合う闘争、つまり「聖杯戦争」が始まる。御三家が常に聖杯戦争に参加出来るのは、遠坂時臣が言っていた様に「聖杯は真摯にそれを必要とするものから優先的に令呪を与える」為である。



【「マキリ」と「間桐」^{まとう}】

御三家のひとつ「マキリ」の長であるマキリ・ゾルゲンは、日本へ移住する際に、名を「間桐臓硯」と変え、以降「マキリ」は「間桐」と名乗る様になる。間桐臓硯は第一次聖杯戦争よりずっと生き長らえている怪物。



【刻印虫】

間桐臓硯が、魔術師として未熟な間桐雁夜に植え付けた蟲。これにより体内に擬似的な魔術回路を創り出す事が出来、雁夜は魔術師としての高い力を手に入れた。ただし、身体に極端な無理を強いるその行為は、余命1ヶ月という代償を支払う事となった。刻印虫は間桐臓硯の秘術であり、それを植え付けられる事は、臓硯の傀儡となり永遠に逆らう事を許されない体となる。



【魔術回路】

魔術師が体内に持つ、魔術を扱うための擬似神経。魔術師は魔術回路を用いて生命力を魔力に変換し、人為的に神秘・奇跡を再現する術を行使する。魔術回路の数が多いほど魔術師として優秀である。生まれながらに持ち得る数が決まっているが、親から子へ受け継ぐ事が可能な為、血を重ねた家柄ほど強力な魔術師となる。ケイネスが「魔術の優劣は血統で決まる」と言っていたのはこの理由から。

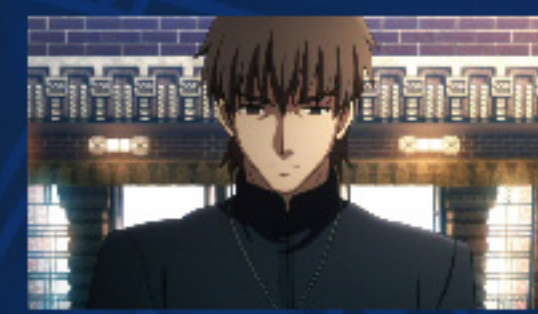
【「魔術」と「魔法」】

一見同じに見える両者であるが、その性質は大きく異なる。

魔術とは、ありえない奇跡に見えるが、その時代の文明を使った別の方法(例えば、通信機器・火力発生装置など)で代用出来る秘術や神秘を指す。対して魔法は、その時代のいかなるもの(資源、時間)を使っても実現不可能な結果をもたらす奇跡を指す。時代の変化や文明の発達により、魔法が魔術に格落ちしていく事は避けられない事である。現代はすでに神秘は失われ、残った魔法は五つのみと言われている。

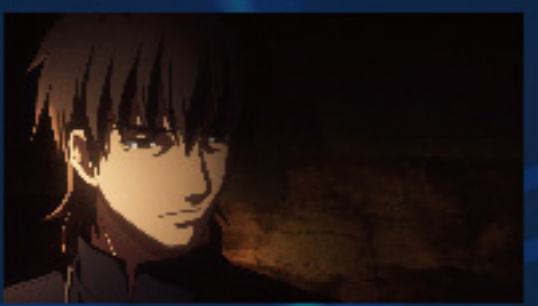
【聖堂教会】

言峰親子の所属する組織。ある巨大な宗教の裏側の存在として、その宗教が掲げる教義に反した者を討伐する為の武力組織である。全ての異端を殲滅し、人の手に余る神秘を正しく管理することを目的とする為、「神秘の秘匿」を第一主義とする魔術協会とは相容れず、幾度と無く闘争を繰り返してきた。尚、言峰綺礼が任についていた「代行者」とは、聖堂教会の中でも異端討伐を最前線で行う修羅の如き戦闘信徒の異名。主にのみ許される魔の消滅を代行する者である為、そう呼ばれる。



【第八秘蹟会】

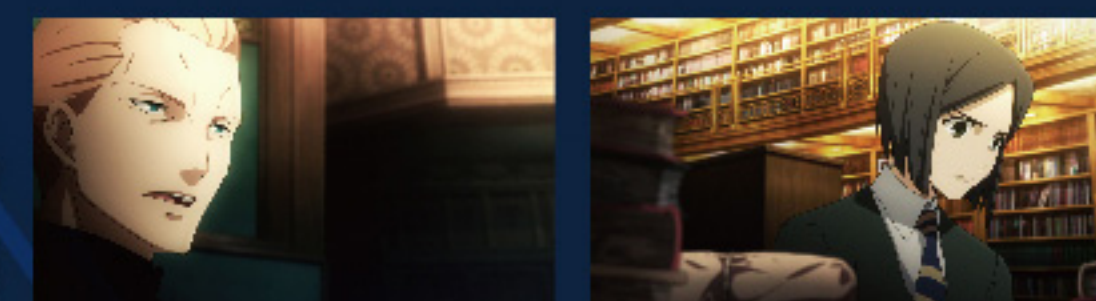
聖遺物の管理・回収を任務とする特務機関の名前。「秘蹟」とは、聖堂教会の教義において神から与えられる七つの恵みを指すのだが、それに属さない「第八秘蹟」とは、正当な教義には存在しない恵みを指し、故に人智を超えた異端に深く関わる部署であることを意味する。



【魔術協会】

様々な国の魔術師たちによって作られた自衛団体で、外敵(教会や怪異など)に対抗するための武力を有し、また、魔術の更なる発展のための研究機関を持つ巨大組織。

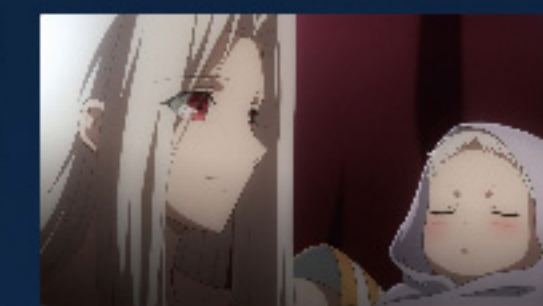
ケイネスやウェイバーが属する時計塔は魔術協会の総本部



であり、生徒も講師も血統の古さを重視する傾向が強く、ウェイバーのように魔術師として歴史の浅い家の出身者は、様々な不遇の扱いを受ける。また、個々の魔術師の研究はその家系のみを受け継がれ、各々が「根源」への到達を目指す為、彼等は「神秘の秘匿」を第一主義とする。故に「神秘の管理」を目的とする聖堂教会とは相容れないが、近代では互いの利益のため、不可侵条約を結んでいる。

【ホムンクルス】

アインツベルン家が錬金術により鑄造した人造人間。魔術回路を基礎とし、それを人間として形作った存在である為、高い魔術能力を持つ。アイリスフィールは聖杯戦争における”とある”理由から生み出されたホムンクルスである。



【「ヘブンズフィール(天の杯)」】

アインツベルンが聖杯に託す願望。錬金術師である彼らが辿り着いた、一族の結論であり悲願。詳細は不明だが、さらなる高次の階梯への道しるべであるらしい。

【サーヴァントの知識】

聖杯戦争に召喚された英霊は、戦いを円滑に進める為に、現代の基礎的な知識、及び、たとえ生前に知らなくとも、自分以外の英霊に関する知識も聖杯から与えられる。但しそれは真名を基礎としたものの為、真名を知らぬ限り、お互いの事は全くわからない。